



コンテンポラリーアニメーション入門

～現代短編アニメーションの見取り図～ 2012

ミシェル・レミュー、イゴール・コヴァリョフ、クレア・キッソン 来日!!

第10回講座 8月18日(土)

第11回講座 10月6日(土)

第12回講座 11月11日(日)



Introduction to
Contemporary
Animation

入場料無料／事前申込不要

会場: 東京藝術大学 横浜校地 馬車道校舎
アクセス: みなとみらい線「馬車道駅」7番出口を出てすぐ
主催: 東京藝術大学大学院映像研究科 共催: 横浜市民文化観光局

我々の同時代にどのようなアニメーション作家が、どのような意識で作品を制作しているのでしょうか。
短編アニメーションは常にアニメーション映像の可能性の最先端を走っています。
しかし、実際に製作者や観客の興味の増幅ほど、短編アニメーションを見て知る機会は増えてはいません。
まずその基礎知識を共有して、コンテンポラリーアニメーションの見取り図を描くことがこの公開講座の目標です。
東京藝術大学大学院映像研究科では、世界的に「いま」を象徴する作家の作品の鑑賞を中心に、講義を公開で行います。

公開講座 馬車道エッジズ 「コンテンポラリーアニメーション入門」～現代短編アニメーションの見取り図～

2009年7月に始まった公開講座「コンテンポラリーアニメーション入門」は、今年、東京藝術大学の招聘で、ミシェル・レミュー監督とイゴール・コヴァリョフ監督、そしてアニメーション研究家のクレア・キッソンさんをお招きし、特別講座を開催します。

企画／進行

山村 浩二

Koji Yamamura

東京藝術大学
大学院映像研究科
アニメーション専攻教授

1964年名古屋生まれ。『頭山』がアヌシー、ザグレブ、広島をはじめ6つのグランプリを受賞、アカデミー賞にノミネートされる。また『カフカ 田舎医者』がオタワなど7つのグランプリを受賞。2011年には日本人初のNFBとのアニメーション共同制作『マイブリッジの糸』を完成。アニメーション作品の国際的な受賞は70を越える。国際アニメーションフィルム協会理事、日本アニメーション協会副会長。

会場：東京藝術大学 横浜校地
馬車道校舎 大視聴覚室アクセス：みなとみらい線「馬車道駅」
7番出口を出てすぐ

入場無料／事前申込不要(先着順90名)

※満席の場合には立ち見のスペースが無い
ため、会場の中に入れない場合があります
のでご留意下さい。なお、1階ロビーにて講座
の映像中継を用意する予定です。

お問い合わせ：ca2012@animation.geidai.ac.jp

詳細はホームページをご覧ください。 <http://animation.geidai.ac.jp/ca2012/>第10回
講座
8月18日(土)

ミシェル・レミュー

Michèle Lemieux

カナダ



演題：『ピンスクリーンの伝承』

講師：ミシェル・レミュー

開場：午後2時～ 講演：1部／午後3時～午後4時30分 2部／午後4時40分～午後6時10分
上映作品(予定)：『ストーミー・ナイト』(2003)、『此処と大いなる何処か』(2012)

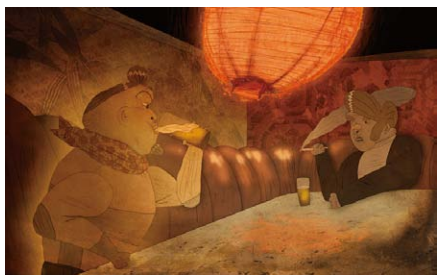
ケベックのラヴァル大学ビジュアル・アーツ科を卒業し、1970年代後半にイラストの世界に入った。モン
トリオールに戻る前にドイツで働いて5年を過ごし、1990年以來、UQAMのデザイン学校で教鞭をとる。
これまでに、イラストを担当した15冊の児童書を発表している。彼女の本は約20の言語に翻訳され、ボ
ローニャRagazzi賞(『永い夜』、1997年、児童文学の最高の国際的栄誉の1つ)を含む数々の賞を獲得し
ている。世界中の多数のグループ展に出品、彼女のライフワークは、ザルツブルク、オーストリア(1999)、
モントリオール(2001)に展示され話題となった。自著『永い夜』を原作に、NFBで自ら監督した初のアニ
メーション作品『ストーミー・ナイト』(2003)は、ベルリン映画祭でクリスタル熊賞、シュトゥットガルトの
最優秀児童映画賞、広島国際アニメーションフェスティバルの審査員特別賞を含む12の賞を受賞した。
2008年に、ジャック・ドゥルルーアンが主催したアレクセイエフ・バーカー・ピンスクリーンのワークショップ
受講を機会に、2本目のアニメーション映画『此処と大いなる何処か』(2012)を完成させた。

第11回
講座
10月6日(土)

イゴール・コヴァリョフ

Igor Kovalyov

ウクライナ、ロシア、アメリカ



演題：『個人作品と商業作品』

講師：イゴール・コヴァリョフ

開場：午後5時～ 講演：午後6時～午後7時30分
上映作品(予定)：『ミルク』(2010)ほか

1954年、ウクライナのキエフ生まれ。ウクライナのアニメーション・スタジオに勤務したのち、モスクワへと
移り、1988年にソ連初の非国営のアニメーション・スタジオであるパイロット(ピロット)・スタジオをアレク
サンドル・タタルスキーと共に設立。初の単独での監督作品『妻は雌鳥』(1990)は、オタワ国際アニメーシ
ョン映画祭でグランプリを受賞。その後、『アンドレイ・スヴィスロツキー』(1991)を完成させたのち、1991
年からアメリカに移住し、クラスキー・クスボ・スタジオの専任作家となる。『ぎゃあ!!!リアル・モンスターズ』
(1994)や『ラグッツ・ムービー』(1998)などのカートゥーン作品の制作を手がけつつ、個人制作の機会を
与えられている。1996年には初期三部作の『窓辺の鳥』を完成し、ふたたびオタワのグランプリを獲得。
2000年の『フライング・ナンセン』を経て、『ミルク』(2005)は、オタワや広島国際アニメーションフェスティバル
をはじめとして、7つの映画祭でグランプリを受賞。現在ロサンゼルス在住、アクメフィルムワークス契約監督。

第12回
講座
11月11日(日)

クレア・キッソン

Clare Kitson

イギリス

演題：『社会批評のメディアとしてのアニメーション：チャンネル4の歴史』

講師：クレア・キッソン

開場：午後5時～ 講演：午後6時～午後7時30分

アニメーション研究家。1970年代初頭ロサンゼルス郡立美術館での
アニメーション・プログラムを主宰、78年ナショナル・フィルム・シアタ
ー(英国)とロンドン・フィルム・フェスティバルの企画者(プログラマ
ー)となる。89年チャンネル4に入り、『ボブの誕生日』(Cartoon d'Or
賞＝ヨーロッパオスカー受賞)、『AはAutismのA』(ジは自閉症の
ジ)、『サウンド・オブ・ミュージック』、『死と母親』、シリーズものとして
『クラブストン・ピラ』(ブロードキャスト・マガジン賞受賞)、『ポン・ラ
イフ』、『ボブとマーガレット』など、多くのアニメーション映画の委託制

作を手がける。93年委託制作した『ヴィレッジ』でCartoon d'Or賞を受
賞、また所属するチャンネル4も同賞受賞。99年英国のアニメーシ
ョンへの貢献でASIFA特別賞受賞。同年チャンネル4を退職、翻訳(露
語・独語)で修士号を取得後、サリー・インスティテュート・オブ・ア
ート・アンド・デザイン大学の講師として本書のもととなる研究を行なう。
2008年アニメーション理論における画期的な業績でザグレブ・アニマ
フェスト賞受賞。著書にアニメーションに関する仏英翻訳二冊ほか、
『話の話』、『British Animation: The Channel 4 Factor』。